

令和7年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（楊梅 幼稚園）

教育目標

「かかわりを楽しみ、よりよい生活を創り出す子ども」の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月20日	学校運営協議会
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 全教職員でのチーム保育により、子どもの育ちと安全、安心を保証する。
- 基本的生活習慣の確立に向け、子どもが自分でできる環境を整え、家庭との連携を図る。
- 人権尊重を基盤にした互いのよさを認める集団作りを進める。
- 子どもの背景をしっかりと見取り、幼稚園全体で共有し取り組むとともに、関係機関との連携を進める。
- 子どもたちが夢中になって遊ぶことができる魅力的な環境を計画的に構成する。
- 友達と一緒に、よりよい考えを十分に試し工夫することができる遊びを子どもと共に創る。
- 積極的な校種間連携・接続で教育の質的向上を図る。
- 地域の実態やニーズに合った子育て支援に努める。

(取組結果を検証する) 各種指標

○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」
- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしている」
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすい」

中間評価

各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価している。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98. 6%

- ・設問「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 97. 2%

- ・設問「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 93. 0%

- ・設問「子どもは自分のことは自分でしようとしている」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 93. 0%

- ・設問「教職員は話しやすく、相談しやすい」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%

自己評価

分析(成果と課題)

子どもが安心して遊び、人との関わりを楽しむ姿が多く見られ、保護者からも高い評価を得ている。教職員の関わりや環境構成の工夫が、子どもの主体的な遊びや集団づくりにつながっている。子ども一人一人の育ちを丁寧に見取る視点や、保護者との関係づくりについて、引き続き大切にしていく。

分析を踏まえた取組の改善

子どもが安心して主体的に遊び、友達と関わる中で育ちが深まるよう、環境構成や援助の工夫を継続する。また、支援が必要な園児への対応を教職員全体で共有し、見守る体制を強化とともに、保護者と子どもの姿を共に見つめ、育ちを喜び合える関係づくりを大切にしていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

保護者アンケートを実施する

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

子どもたちが楽しそうに活動する姿から、園が安心して通える場であることが伝わってくる。支援の必要な子どもに対しても、一人一人の子どもが安心を感じ、「やってみたい」「やってみよう」と思う意欲を育てる大切な関わりを引き続き大切にしてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（2）幼保小の架け橋プログラムの推進について

具体的な取組
・下京雅小学校との合同研究組織の中で研究を推進する。研究保育・研究授業及び研究協議、エピソード研修、合同研修会などを実施する。地域の未就学施設との交流・連携を計画、実施する。
(取組結果を検証する) 各種指標
保護者アンケートの評価項目 ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」

中間評価

各種指標結果
・設問「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 97. 2%
自己評価
分析（成果と課題） 小学校との日常的な交流を通して、園児が異年齢の人との関わりに親しみをもち、安心を感じている姿が見られた。公開保育・授業や合同研修などを通じて、保育の質の向上と教育観の共有が進み、教職員間の連携も深まっている。こうした交流が、子どもたちの心の育ちや社会性の形成に寄与している。
分析を踏まえた取組の改善 交流の目的や内容を事前に明確にし、互いの教育的意図を共有することで、子どもにとって意味のある体験となるよう工夫を重ねていく。また、幼保小の教員が子どもの育ちについて語り合える場を設け、教育観の共有を図ることで、より深い連携を築いていきたい。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○公開保育・授業、研究発表会の実施 ○交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	小学生との自然な交流が、園児にとって親しみやすく、安心感につながっている。異年齢の関わりが育ちに良い影響を与えていているとして、地域としても連携を支援したい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組
・幼児の心身の負担に配慮し、1日の幼稚園生活を見通し、心と体を落ち着けて遊ぶことができる環境の設定や人員配置を行う。	
	(取組結果を検証する) 各種指標
	保護者アンケート評価項目 「安心して子どもを預かり保育に参加させている」

中間評価

	各種指標結果
・設問「保護者は安心して子供を預かり保育に参加させていますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%	
自己 評 価	分析 (成果と課題) 預かり保育に対する保護者の信頼は高く、安心して利用できる場として定着してきている。教職員の温かな関わりや活動内容の工夫により、子どもたちが落ち着いて過ごせる時間が確保されている。特別な支援が必要な園児も多く利用していることから、個別の配慮が求められる。
	分析を踏まえた取組の改善 子どもが楽しみながら過ごせるよう活動の幅を広げるとともに、担当教員との連携をさらに強化し、個々のニーズに応じた環境づくりを進めていく。また、保護者との関わりを通じて、預かり

	保育の様子を共有し、安心感を高める取組みも継続していきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 預かり保育参加者数や参加者の感想などから検証する。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 子どもも保護者も安心して利用できる環境が整っている。今後も子育て支援の場として、安定した運営をしてほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や未就園児の様子を温かく見守り、声をかけて相談に応じたり、保護者同士をつなげたり安心感につなげる。 未就園児を対象に季節の行事や遊びなど魅力的な活動を行う。 満3歳児や2歳児、地域の小規模保育園児が安心して幼稚園での遊びを楽しむことができる場を提供する。
	(取組結果を検証する) 各種指標

- 未就園クラスの取組の内容と参加の保護者の様子、人数、日数

中間評価

	各種指標結果
	未就園児クラスの登録者数は昨年度より減少傾向にあるが、教育相談の案内のチラシに具体的な活動内容を記載し、参加への関心を高める工夫をしている。また、小学校施設を使わず、幼稚園内で実施することで、園の様子を直接知ってもらう機会を増やしている。
自己 評 価	分析(成果と課題) 未就園児クラスでは、保護者同士が安心して語り合える場が形成されており、子育てへの不安が軽減されている様子が見られる。

評価	分析を踏まえた取組の改善
	子どもが自然に遊びたくなるような空間づくりを工夫し、保護者が気軽に交流できる雰囲気を大切にするとともに、在園児との関わりを通じて幼稚園教育への理解を深める機会を増やしていく。また、園の教育方針や活動内容を丁寧に発信し、地域とのつながりを強めていきたい。
学校 関係 者 評 価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・未就園クラスの取組の内容 ・参加した保護者の様子 ・参加者数 ・活動日数 学校関係者による意見・支援策 <p>未就園児や保護者への温かな関わりが地域に根差した支援として受け止められている。園の教育発信に対して、地域としても協力していきたい</p>

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校 関係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・参観や懇談の機会を増やし、家庭との連携をはかるとともに幼児の発達や幼稚園教育への理解を深めができるようとする。 ・地域の伝統文化（葵祭、祇園祭、扇子の絵付け体験）に触れる機会をつくる。
	(取組結果を検証する) 各種指標
○保護者アンケートの評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもはいろいろなものやこと、人とのかかわりやふれあいを楽しんでいる」

中間評価

自己評価	各種指標結果
	・設問「子どものはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 97.0%
	分析（成果と課題） <p>地域とのつながりを意識した教育活動（地域の伝統文化に触れる機会）が、子どもたちの生活や遊びの広がりにつながっており、保護者からも好意的な声が寄せられている。SNS や地域だよりなどを活用した情報発信により、園の教育方針や子どもの育ちについて広く伝えることができている。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>地域の子育て支援拠点としての役割をさらに明確にし、保護者と教職員が子どもの育ちを共に喜び合える場づくりを継続するとともに、地域との協働を深めていく。</p>
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 保護者アンケートの実施
学校関係者による意見・支援策	地域全体が子育てしやすい環境になるよう、幼稚園と連携して取り組んでいきたい。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	見通しをもって勤務時間内に効率的に仕事に取り組み、優先順位をつけながら業務をこなす。
	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none">・教職員一人一人の自らの働き方や資質・指導力向上への意識改革を進める。・会議の効率化、校務支援員との連携、行事などの役割分担など、日々の業務を見直し改善する。・ノー残業デーを守る。・長期休業中の年休取得日を増やす。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 長時間勤務の時間数
- 年休取得日数

中間評価

各種指標結果

長時間勤務の時間数は減少し、年休取得日数も増加している。

自己評価	分析 (成果と課題)
	長時間勤務の削減や年休取得の促進が進み、教職員の意識にも変化が見られている。ICT の活用や校務支援員との連携によって業務の効率化が図られ、保育や研修に向けた準備も計画的に進められるようになってきた。
	分析を踏まえた取組の改善
	行事前の業務整理や役割分担を明確にし、保育に集中できる時間を確保する。教職員が心身ともに健やかに働く環境づくりを継続していく。業務の質を保ちながら、無理のない働き方を実現するための工夫を重ねていきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 長時間勤務の時間と年休取得日数
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 効率的な働き方を進める中で、教育の質を保つ工夫が求められている。地域としても、園の取り組みに対してできる範囲で支援していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策